

イベント会場のオンラインニーズ調査

大谷 紀子 研究室

0432029 犬飼淳

1. 研究の背景と目的

演劇公演、ライブ等のイベント企画における会場探しではWEBが大きな情報源となる。しかし、各会場のWEBサイトはそれぞれ異なる形式で書かれているため、効率的な会場検索ができない。また、立派な劇場を建てても制作者のニーズを掴まなければ上演は依頼されない。箱物行政に代表されるように公演がほとんど行われない会場が日本には数多く存在する。

本研究はイベント制作者の効率的な会場探しを支援し、会場探しにおけるニーズを探ることを目的とする。会場情報入力モジュールと会場情報検索モジュールから構成されるオンラインニーズ調査システムを開発する。被験者はイベントの会場探しをすると仮定して本システムを使用し、イベント形態ごとの傾向を調査する。

2. システムの概要

本研究で提案するシステムは、会場データを登録するための会場情報入力モジュールと会場探しをするための会場情報検索モジュールから構成される。会場情報入力モジュールを用いて、会場情報を登録、変更、削除する。ユーザは会場情報検索モジュールを用いて、検索項目を最大5つまで設定し、検索条件に合致する候補一覧から、使用したい会場を選択する。また、イベント形態ごとにユーザの検索項目、会場選択の傾向を調査する。図1に検索条件入力時の画面例、図2に検索結果の画面例を示す。イベント形態、検索項目の詳細を以下は以下の通りである。

✓ イベント形態 (7種類)

演劇、ミュージカル、ダンス、バレエ、クラシックコンサート、ライブ、講演会

検索条件

イベント形態	クラシックコンサート
第一条件 舞台形式	オーブンスター2
第二条件 演劇時間	15 秒以上 18 秒以下
第三条件 舞台面積	100 m ² 以上 300 m ² 以下
第四条件 沿線	みなとみらい線
第五条件 貸出料金(入場料を徴収しない場合)	1000000 円以下

[検索]

図 1: 検索条件の画面例

候補一覧

「詳細表示」で会場情報を確認できます
使用したい会場が決まったら、「決定」をクリックしてください。

選択	会場名	アクセス	舞台形式	面積	貸出料金(入場料を徴収しない場合)
<input type="checkbox"/>	関内ホール(大ホール)	横浜市営地下鉄関内駅西口	プロセシウム	1104席	170000円
<input type="checkbox"/>	関内ホール(小ホール)	横浜市営地下鉄関内駅西口	プロセシウム	264席	35000円
<input type="checkbox"/>	横浜入船の家(ありてつ劇場)	みなとみらい線元町中華街駅西口	プロセシウム	143席	14000円
<input type="checkbox"/>	岸立共済みらいホール	JR横浜線岸立木町駅西口	プロセシウム	300席	120000円

図 2: 検索結果の画面例

✓ 検索項目（17種類）

沿線、最寄り駅からの徒歩時間、舞台形式、舞台面積、間口、奥行き、高さ、客席数、車イス席数、オーケストラピットの有無、楽屋室数、残響時間、貸出料金（入場料を徴収しない場合）、貸出料金（入場料を徴収する場合）、はまっカードの有無、抽選の有無、営利目的による料金変動

3.評価実験

被験者は演劇、音楽、舞踊に携わった経験がある23名（男性9名、女性14名）である。被験者はインターネット経由で本システムにアクセスし、配布したIDとパスワードでログインする。イベントの会場を探す場面を想定して、イベント形態ごとに会場情報検索モジュールを使用する。検索対象は神奈川県内の劇場・ホール121件とした。

使用後にアンケートを行い、「本システムは会場探しに役立ったか」という質問に対して「はい」、「どちらともいえない」、「いいえ」の選択肢を設け、78%の被験者が「はい」と回答した。

また、被験者が選択した検索項目を以下の手法で計算した値を「優先度」とし、図3に示す。検索項目ごとに第一条件は5点、第二条件は4点、第三条件は3点、第四条件は2点、第五条件は1点として加算した。「優先度」が高い検索項目は、被験者が会場探しにおいて重要視していることを表す。交通アクセスやコスト、基本設備に関わる項目の優先度が高いことが図3から読み取れる。

4.考察

アンケートでは本システムが会場探しに役立つという意見が大半を占め、本システムの有用性が確認された。また、「都内の会場も検索したい」、「劇場・ホールだけではなく、ライブハウスや演奏ができるお店も探したい」という意見もあり、会場検索システムのニーズは高いと考えられる。さらに、追加して欲しい検索項目として、主催・提携・貸館・共催などの事業形態の募集、会場周辺の環境、搬出口の大きさ、音響・照明設備など様々な情報が挙げられ、新たな要望を取り入れることにより、本システムの有用性はさらに高まるといえる。会場検索システムのニーズが高い理由として、以下の2つが考えられる。第一に、キャスト、スタッフも含めて制作者は予算とプロデュースを常に考えて公演に携わる必要があるため、最初に適切な会場を選ぶことが重要である。第二に、集客からリピーターを増やし、大劇場へとステップアップするサイクルを実行できていない団体が多い。

しかし、検索対象となる会場が約120件と少ないため、「検索条件を細かく設定すると検索結果が得られない」という意見も多かった。また、「予約システムと連動しなければ、会場検索をしても二度手間」という声も聞かれた。今後の課題として、登録会場を増やすこと、施設の空き状況を会場データに加えることが挙げられる。

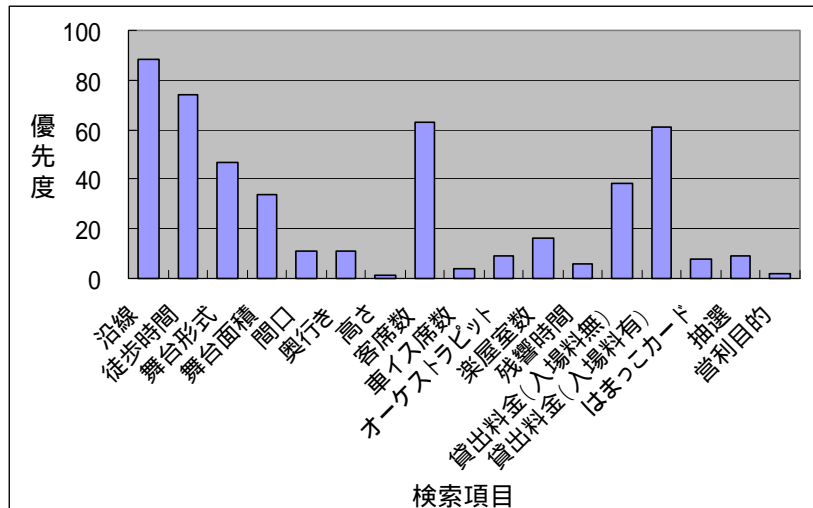


図3:検索項目ごとの優先度